

Title	臨床哲学ニューズレター 第4号 目次
Author(s)	
Citation	臨床哲学ニューズレター. 2022, 4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/86350
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

臨床哲学ニューズレター

Vol.4

— 目 次 —

目次 (1)

『臨床哲学ニューズレター』 vol.4 への巻頭言 小西 真理子 (3)

【特集1】 第3回臨床哲学フォーラム（シリーズ：ふるいにかけてられる声を聴く）

テーマ「書くことと、考えること、行動すること」

第3回臨床哲学フォーラム

「書くことと、考えること、行動すること」の特集にあたって 桂ノ口 結衣 (5)

講演：「書くことと、考えること、行動すること」

あるいは対話と社会運動のためのキリスト教的・フェミニズム的論述 … 栗田 隆子 (8)

栗田隆子さんへの感想文① すぎざわ くりこ (21)

栗田隆子さんへの感想文② 井上 瞳 (23)

栗田隆子さんへの感想文③ S. Tsubasa (24)

栗田隆子さんへの感想文④ 小西 真理子 (25)

【特集2】 第4回 臨床哲学フォーラム（組織と対話）

テーマ「組織に関わる悩み・違和感」

第4回臨床哲学フォーラム

「組織に関わる悩み・違和感」の特集にあたって 堀江 剛 (27)

祈り、あるいは組織と対話のつながりについて 中川 雅道 (30)

福祉職員の「感覚」 菊竹 智之 (38)

組織と対話についての不都合な真実

—なぜ生協理事会は組織に関わる人の違和感を

スルーしなかったのか？ 高橋 綾・ほんま なほ (44)

【特集3】 〈応用〉することの倫理——緊縛シンポ、ブルーフィルム、ジェンダー

「〈応用〉することの倫理——緊縛シンポ、ブルーフィルム、ジェンダー」の

特集にあたって……………小西 真理子 (54)

ピーター・シンガーはなぜあれほど憎まれてしまったのか？

——哲学分野における〈応用〉的試み初期の倫理問題を再訪する ……奥田 太郎 (56)

緊縛研究と哲学者——京大・緊縛シンポとは何だったのか……………河原 梓水 (69)

研究者による当事者加害の「その後」を考える

——緊縛シンポをきっかけとした研究倫理〈再考〉の断片……………小西 真理子 (85)

旅館で本を読む哲学者

——水俣への哲学的アプローチの方法をめぐって……………吉川 孝 (97)

ワークショップの感想文①「倫理学者という「権力者」になるにあたって」中村 達樹 (117)

ワークショップの感想文②「当事者の夢に引きずられない歴史分析を」小竹 由剛 (118)

ワークショップの感想文③「緊縛シンポ事件の伏線——構造的責任を考える」大隈 楽 (119)

ワークショップの感想文④「誰にとっての倫理か」……………Trin (121)

ワークショップの感想文⑤「緊縛シンポジウムの学術批判への対応について」匿名希望 (122)

ワークショップの感想文⑥……………神沢 美津穂 (123)

ワークショップの感想文⑦……………匿名希望 (125)

臨床哲学の書きもの

「毒親」概念の倫理——自らをアダルトチルドレンと

「認める」ことの困難性に着目して……………高倉 久有、小西 真理子 (126)

フェミニズム臨床哲学とクリエイティブ・ライティング……………ほんま なほ (181)

研究室主催イベント&アセンブリアワーの記録…………… (196)

執筆者一覧…………… (198)